

天星製油株式会社

環境経営レポート

第38期 VOL. 19.0

(2021/11/1~2022/10/31)

産廃処理業者向けガイドライン2017準拠



2022年10月31日

目次

1. 組織の概要	P. 2
2. 許認可	P. 4
3. 環境経営方針	P. 7
4. 環境経営計画	P. 8
5. 環境負荷実績	P. 9
6. 環境経営計画の取組結果とその評価	P.11
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	P.14
8. 次年度の取組内容	P.15
9. 代表者による全体評価と見直し	P.16

<改訂履歴>

VOL. 19.0 2022年10月31日 新規作成

1. 組織の概要

1. 事業所名 天星製油株式会社
2. 代表者名 代表取締役 鈴木宏政
3. 法人設立 1984年11月1日
4. 資本金 1,000万円
5. 事業所 本社：静岡県浜松市浜北区新原3833-1（廃油の集荷・処理、再生油の製造）
若草油槽所：静岡県浜松市浜北区寺島652-1 他（再生油の保管）
山梨営業所：山梨県笛吹市一宮町国分1284-1 他（廃油の集荷・保管）
6. 環境管理責任者 代表取締役 鈴木宏政
連絡先 …… TEL：053-586-9911 FAX：053-586-9915
e-mail：entry@tenboshi.com
WEBサイト：<http://www.tenboshi.com/>

7. 組織沿革

- 1946年 天星鈴木製油所設立
- 1962年 鉱物油廃油の再生開始
- 1966年11月 天星製油有限会社設立
- 1984年11月 天星製油株式会社へ改組
- 1988年8月 山梨営業所開設
- 2001年8月 若草油槽所開設
- 2009年10月 浜北区新原へ本社移転
- 2011年12月 笛吹市一宮町へ山梨営業所移転
- 2017年11月 一般貨物自動車運送事業許可取得
- 2020年4月 一般建設業許可取得（とび・土工工事業）
- 2021年2月 一般建設業許可の種類追加（土木工事業・管工事業）
- 2022年8月 エコメンステーション開設**



8. 事業の概要

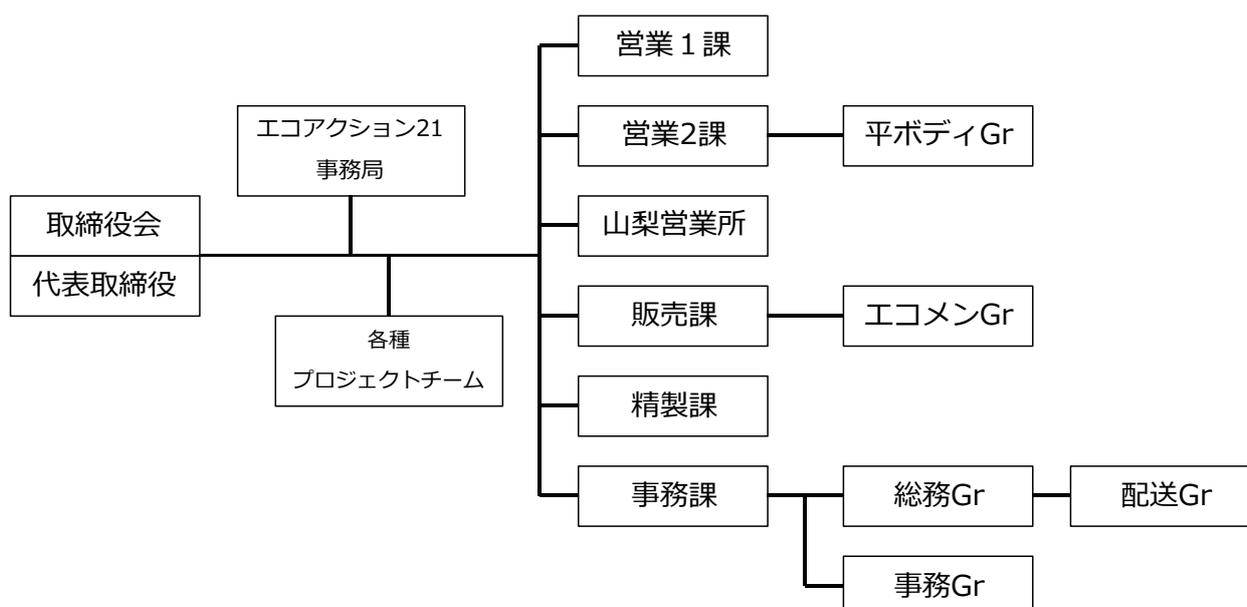
- ◆ 廃油買取
- ◆ 再生重油・再生潤滑油の委託・再生及び販売
- ◆ 産業廃棄物の処理（廃油、産廃水、汚泥の収集・運搬及び処分）
- ◆ メンテナンス事業（油槽等の清掃、漏洩検査、タンク撤去・設置等）
- ◆ 漏油事故処理
- ◆ 防災用品販売（吸着マット、土壌処理剤の販売）
- ◆ 一般貨物自動車運送事業（製品の移送等）

9. 事業の規模

活動規模 (単位)	第36期 2019.11.1 ~2020.10.31	第37期 2020.11.1 ~2021.10.31	第38期 2021.11.1 ~2022.10.31
売上高 (百万円)	730	797	950
車両台数 (台)	56	56	58
人員 (人)	55	54	58
油保管容積 (kL)	1,435	1,435	1,435
原料・産廃処理量 (万kL)	1.98	2.07	2.05
敷地面積 (m2)	14,966	14,966	15,740

10. 認証・登録範囲

全組織、全活動、全従業員対象



役割	責任及び権限
代表取締役	環境経営方針の決定、目標と計画の承認、代表者によるチェック
EA21 事務局	環境経営目標と計画の起案、活動の推進、環境経営レポートの作成
各種プロジェクトチーム	各活動の推進、職場会議の主催
全従業員	環境経営方針の理解、目標達成のために P D C A を回す



2. 許認可

1. 産業廃棄物処理の許可の内容

◆ 収集運搬業

<普通産業廃棄物>

自治体 (◎:優良認定)	許可番号	許可年月日	有効年月日	積替 保管	産業廃棄物の種類					
					廃 油	廃 ア ル カ リ	汚 泥	金 属 く ず	廃 プ ラ ス チ ッ ク 類	廃 酸
静岡県 ◎	第02201002575号	2021年7月31日	2028年7月30日	無	○	○	○	○	○	-
愛知県 ◎	第02300002575号	2016年3月10日	2023年3月9日	無	○	○	○	○	○	-
山梨県 ◎	第01915002575号	2016年8月24日	2023年8月23日	有/無	○	○	○	○	○	-
岐阜県 ◎	第02100002575号	2016年8月29日	2023年8月28日	無	○	○	○	○	○	-
神奈川県 ◎	第01405002575号	2017年6月28日	2024年5月31日	無	○	○	○	○	○	○
東京都	第1300002575号	2019年6月1日	2024年5月31日	無	○	-	-	-	-	-
長野県	第2009002575号	2019年6月13日	2024年6月12日	無	○	○	○	○	○	-
三重県	第02400002575号	2019年8月28日	2024年7月20日	無	○	○	○	○	○	-
滋賀県 ◎	第02501002575号	2020年5月26日	2027年4月27日	無	○	○	○	○	○	-

<特別管理産業廃棄物>

自治体 (◎:優良認定)	許可番号	許可年月日	有効年月日	積替 保管	産業廃棄物の種類
					引火性廃油
静岡県 ◎	第02251002575号	2022年4月5日	2029年4月4日	無	○
山梨県 ◎	第01965002575号	2022年8月23日	2029年8月22日	有/無	○
愛知県 ◎	第02350002575号	2022年10月7日	2029年10月6日	無	○
神奈川県 ◎	第01455002575号	2016年6月20日	2023年6月13日	無	○
長野県 ◎	第2059002575号	2021年12月13日	2028年12月12日	無	○
岐阜県 ◎	第02150002575号	2022年3月3日	2029年3月2日	無	○
三重県 ◎	第02450002575号	2022年3月6日	2029年3月5日	無	○
千葉県	第01250002575号	2018年8月14日	2023年6月25日	無	○

◆ 処分業

種類	自治体 (◎:優良認定)	許可番号	許可年月日	有効年月日	事業区分	産業廃棄物の種類
普通	浜松市 ◎	第06321002575号	2021年8月6日	2028年8月5日	中間処分	汚泥、廃油、廃アルカリ、 金属くず、廃プラスチック類
特別 管理	浜松市 ◎	第06371002575号	2022年4月5日	2029年4月4日	中間処分	引火性廃油

2. 産業廃棄物処理の施設等の状況

◆ 収集運搬車両の種類と台数

- タンクローリー(2kL) …… 1台
- タンクローリー(4~6kL)… 23台
- タンクローリー(8kL超) …… 9台
- 平ボディ車…………… 6台
- 吸引車 ……………… 5台



◆ 積替保管施設（山梨営業所）の面積と保管上限量

面積 …… 106.83m²

廃油 …… 64.0m³ 引火性廃油 …… 21.0m³ 廃プラスチック類 …… 13.0m³
 廃アルカリ …… 19.0m³ 汚泥 …… 13.0m³ 金属くず …… 13.0m³

◆ 処理施設の種類、能力および処理する産廃の種類

<普通産業廃棄物>

油水分離①(遠心分離)	305 kL/日	廃油、汚泥
油水分離②(遠心分離)	154 kL/日	廃油、汚泥
油水分離(重力中和)	60 kL/日	廃油、汚泥
蒸発濃縮	360 kL/日	廃油、廃アルカリ
混合	352 kL/日	廃油、廃アルカリ
ろ過	19.2 kL/日	廃油
切断圧縮	3.8 t/日	金属くず、廃プラスチック類
脱水	35 kL/日	廃油、汚泥

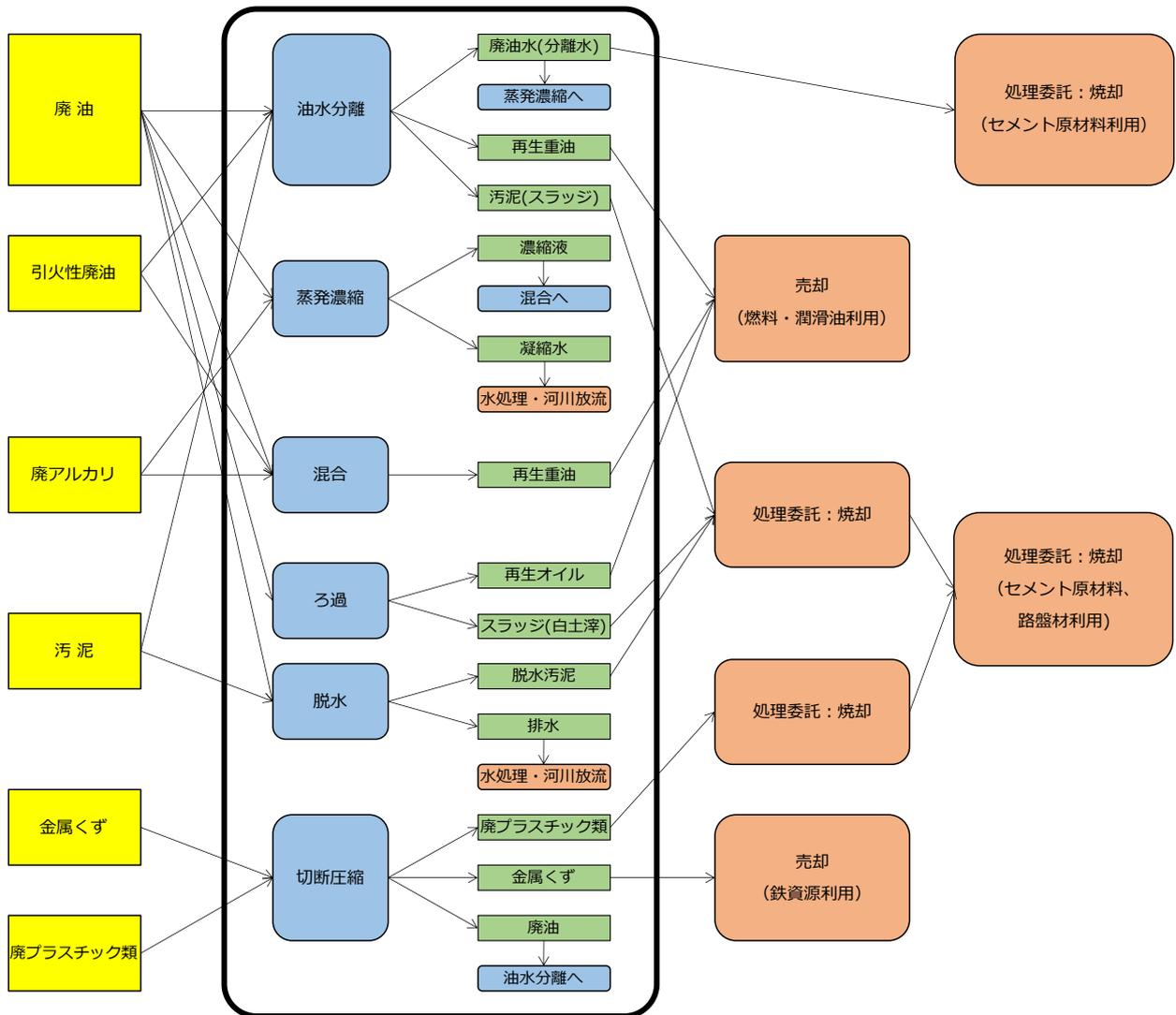
<特別管理産業廃棄物>

油水分離①(遠心分離)	305 kL/日	引火性廃油
油水分離②(遠心分離)	154 kL/日	引火性廃油
油水分離(重力中和)	60 kL/日	引火性廃油
混合	352 kL/日	引火性廃油

3. 産業廃棄物処理の料金

サンプル分析や排出工程の調査、SDS、WDS等により検討し決定する。

4. 処理方式及び処理工程



油水分離

混合



ろ過

脱水

切断・圧縮

3. 環境経営方針

<基本理念>

1. 当社は「廃油リサイクルの専門家」として、廃油のリサイクル、産業廃棄物の処理、油関連設備等のメンテナンスの事業活動を通じて地球の環境保全に貢献する。
2. 自らの事業においても環境との調和、自然との共生に配慮し、すべての部署で環境の保全・向上に対して積極的・継続的な活動を展開する。
3. エコアクション21ガイドライン（業種別ガイドライン）に基づいた環境経営システムを構築、運用、維持する。

<行動指針>

1. 廃油のリサイクルシステムの普及、改善、安定化に継続的に努力する。
2. 環境関連の法律、規制、我々が同意するその他の要求事項を遵守する。なかでも廃棄物処理法には最大の注意をする。
3. 自他の環境事故、特に火災、漏油に対して、予防対策、事故処理訓練を実施する。
4. 省エネルギー、省資源、環境保全を全ての活動範囲で取り組む。特に収集運搬車両のエコドライブ、燃費削減、排気ガスの削減に心がける。
5. 地球温暖化ガスの発生抑制に努める。
6. 周辺環境、地域社会との共存に努力する。
7. 環境教育、情報の収集等により、見識を高め、全社員が環境経営方針をはじめ環境経営目標、環境経営計画を理解したうえで行動に落とし込む。
8. 職場の作業環境の向上、具体的には、安全衛生面、平易化、効率化、見える化に努力する。
9. 当社より排出する廃棄物の削減に努力する。



制定日 2005年3月5日

最終改定日 2021年9月6日

天星製油株式会社

代表取締役 鈴木宏政

4. 環境経営計画

1. 二酸化炭素排出量の削減



- ◆ 人・車両毎にデータ取り、安全運転・エコドライブに努める
- ◆ 設備・処理方法・作業方法等の改善
- ◆ 必要最小限での使用に努める

2. 集荷、処理システムの向上



- ◆ 営業力・作業効率の向上方法の検討・実施
- ◆ 設備・処理方法・作業方法等の検討・実施、改善

3. 水使用量の削減



- ◆ 必要最小限での使用に努める
- ◆ 設備・処理方法・作業方法等の改善

4. 廃棄物の削減



- ◆ リサイクル向けに分別
- ◆ ウエス等の資材の節制、処理後廃棄物の削減・活用法検討・実施

5. 化学物質の適正管理



- ◆ 設備、処理方法、作業方法等の改善

6. 教育



- ◆ 業務に関わる教育(安全、法令、環境等)を行う

7. 法令順守



- ◆ 法令環境保全協定の履行・改正の確認
- ◆ 必要に応じて関連委員と連携を取る

8. 地域との共生



- ◆ 地域に対する貢献活動を行う

9. 見える化・平易化



- ◆ 設備・手順の表示、工程の見直し、文書の整理等
- ◆ 必要に応じて関連委員と連携を取る

5. 環境負荷実績

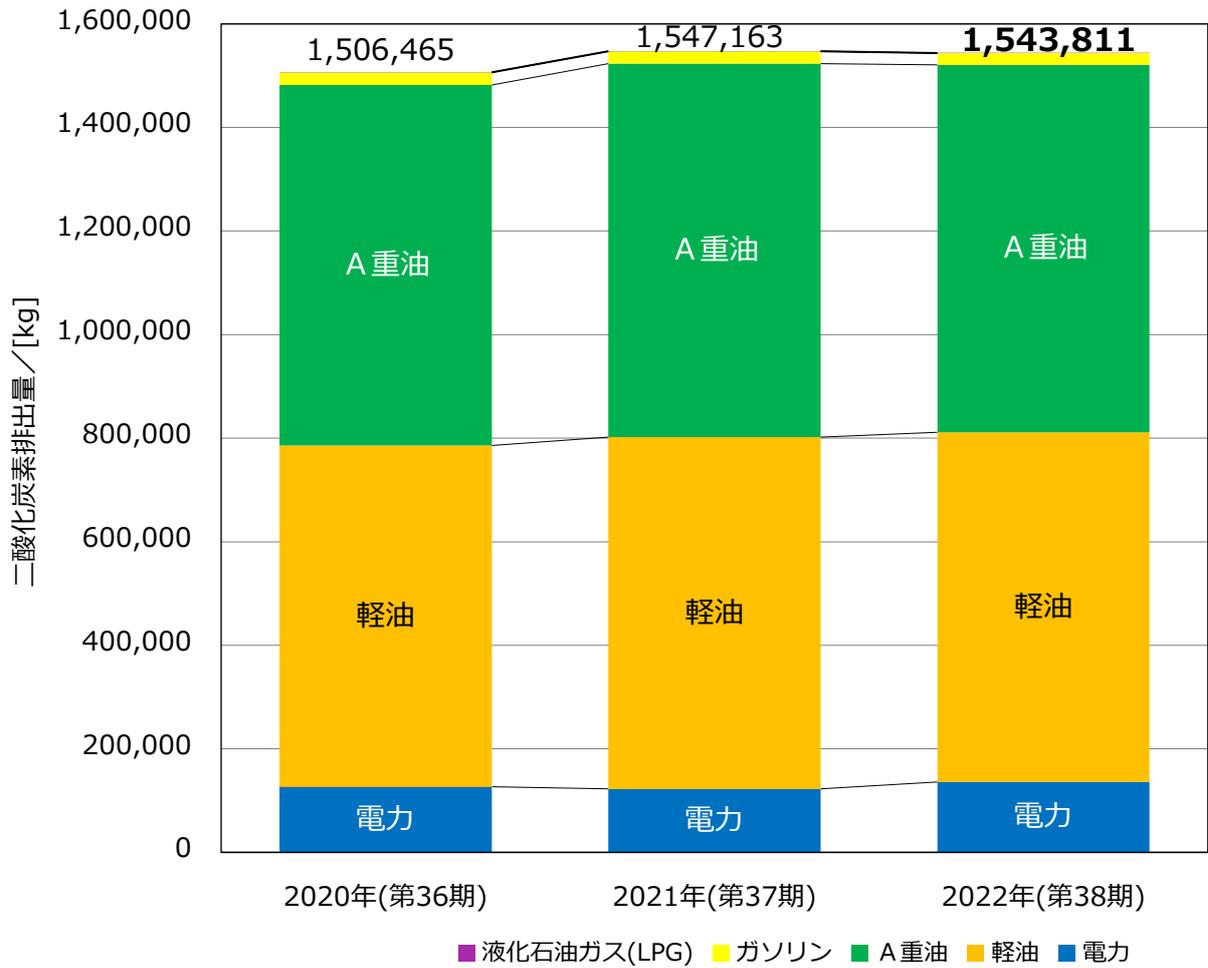
1. 環境負荷の実績

項目 (単位)		2020年 (第36期)	2021年 (第37期)	2022年 (第38期)	
CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	電力計	126,485	122,709	135,951	↑
	電力(本社)	125,618	121,854	135,148	↑
	電力(山梨営業所)	867	855	803	↓
	ガソリン	24,335	23,843	22,618	↓
	軽油	659,359	678,998	675,368	↓
	A重油	696,199	721,510	709,749	↓
	液化石油ガス(LPG)	87	103	125	↑
	合計	1,506,465	1,547,163	1,543,811	↓
受託、または受領した産業廃棄物、再生資源等の処理量(t)	収集運搬量	6,484	6,723	6,775	↑
	中間処理量	6,474	6,709	6,680	↓
	うち再資源化等量	6,280	6,609	6,605	↓
	最終処分量	0	0	0	-
	中間処理後の処分量	7,225	7,610	7,682	↑
	最終処分量等	0	0	0	-
	中間処理量等	7,225	7,610	7,682	↑
一般廃棄物総排出量(kg)	1,330	1,392	1,598	↑	
産業廃棄物総排出量(kg)	2,323,260	2,483,710	2,592,885	↑	
中間処理量	2,323,260	2,483,710	2,592,885	↑	
うち再資源化量	74,010	90,420	89,890	↓	
水使用量(m ³)	上水	363	446	390	↓
	地下水	12,750	11,995	12,284	↑
化学物質使用量(kg)	メチルナフタレン	15.8	16.4	16.1	↓

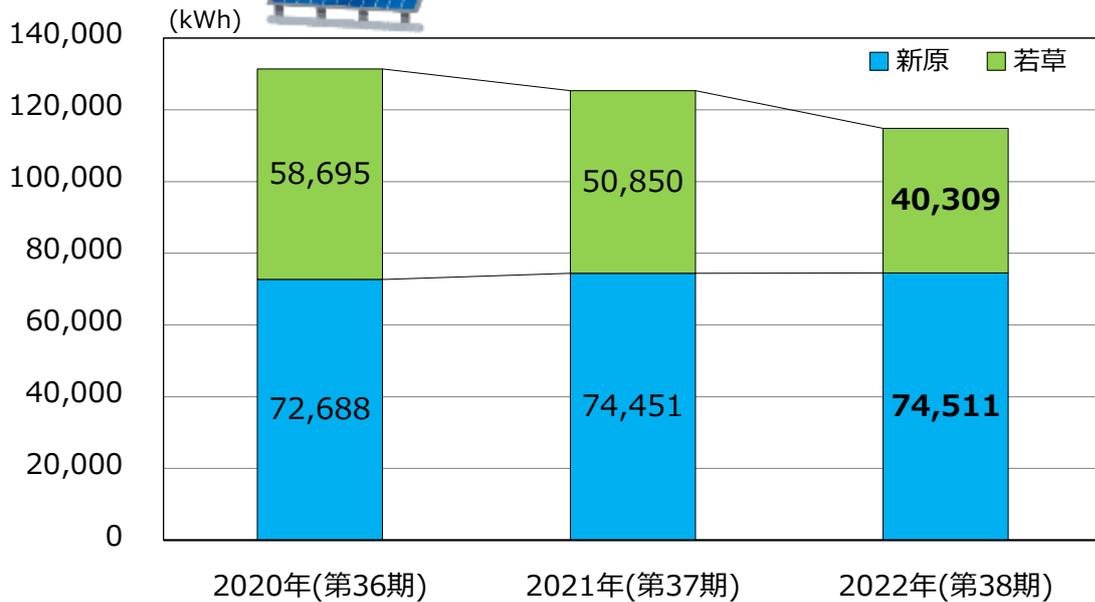
<備考> 電力二酸化炭素調整後排出係数	第36期	第37期	第38期
本社(～2021年5月)	0.386	0.302	-
本社(2021年6月～2022年6月)	-	0.523	0.458
本社(2022年7月～)	-	-	0.433
山梨	0.494	0.472	0.472



2. 環境負荷実績の経年変化グラフ



3. 太陽光発電実績

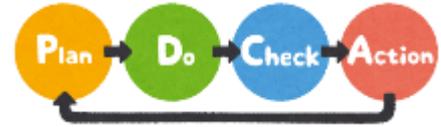


6. 環境経営計画の取組結果とその評価

1. 短期環境経営計画の取組結果と評価及び内容

項目		37期	38期				
		基準値	目標	実績	評価	活動・取組内容	
二酸化炭素 排出量の 削減	二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	1,547,163	100%以下	1,543,811	99.8%	○	(以下参照)
	【軽油車】 輸送量あたり燃費(集荷L/L)	175.9	101%以上	183.4	104.2%	○	集荷ルート見直し、社 内での定期点検
	【軽油車】 距離あたり燃費(km/L)	5.11	100%以上	5.00	97.9%	×	エコドライブ、アイド リングストップ
	【ガソリン車】 距離あたり燃費(km/L)	14.14	101%以上	14.05	99.3%	×	安定走行の徹底
	【平ボディ+大型】 距離あたり燃費(km/L)	4.51	100%以上	4.46	98.9%	×	体調を崩さない範囲で のエコドライブ
	【ダンパー車】 デジタコの点数(点)	96.7	97点以上	96.8	100.1%	×	車両毎の特性を踏まえ た慎重な運転
	A重油使用量 (使用量L/処理量kL)	12.5	100%以下	12.0	95.5%	○	蒸発濃縮装置、加熱タ ンクの効率上昇
	高圧電気使用量 (使用量kWh/処理量kL)	14.6	100%以下	13.9	94.8%	○	生産方法の改善、見直 し
	電灯、エアコン電力使用量 (kWh)	5,062	100%以下	4,830	95.4%	○	無理の無い範囲での省 エネ
集荷、処理 システムの 向上	廃油+廃棄物 (万kL)	2.07	103%以上	2.05	98.9%	×	新規獲得に向けた営業 活動、営業品目増
	再生重油生産効率の向上 (kL/h)	5.97	101%以上	6.61	110.7%	○	生産効率の改善
	廃油水処理効率の向上 (kL/h)	1.05	100%以上	0.98	93.8%	×	生産効率の改善
水使用量の 削減	水道水使用量 (m ³)	446.3	100%以下	389.9	87.4%	○	節水の徹底
	地下水使用量 (m ³)	11,995	100%以下	12,284	102.4%	×	生産効率の改善
廃棄物の 削減	一般廃棄物 (kg)	1,392	100%以下	1,598	114.9%	×	分別の徹底、使用量・ 廃棄量の明示
	参考値：リサイクル率	52%	-	44.3%	-	-	
	産業廃棄物 (kg)	2,483,710	100%以下	2,592,885	104.4%	×	ウエスの再利用、分別
化学物質の 適正管理	メチルナフタレン (g/kL) (使用量/集荷量)	0.79	100%以下	0.79	99.5%	○	生産効率の改善
教育	各課にてPDCAを回す	-	実施	実施	○	課内勉強会、社内研 修・訓練	
法令順守	違反なし	-	違反無し	違反無し	○	法改正講習、課内講習 会の実施	
地域との 共生	地域貢献	-	実施	実施	○	花壇作り、近隣のゴミ 拾い・除草作業	
見える化 ・平易化	各課にてPDCAを回す	-	実施	実施	○	マニュアル作成、LW での情報共有	

2. 取組結果について



1. 二酸化炭素排出量の削減

猛暑・厳冬の影響によりエアコン使用量及び液化石油ガス(LPG)使用量は増加したが、ガソリン・軽油・A重油使用量を抑えられた為、全体での二酸化炭素排出量は前期比 **99.8%**と僅かながら削減出来た。

2. 集荷、処理システムの向上

会社全体の集荷量は、半導体不足による稼働日減少や豪雨被害の影響で前期より減少した。処理システムについては、精製課での継続的な効率改善策により再生重油生産効率が大幅に向上した。

3. 水使用量の削減

地下水ポンプや井戸水メーターの故障が発生したが、迅速な対応のおかげで使用量にはあまり影響を及ぼさず、上水は削減、地下水は微増程度に抑えられた。

4. 廃棄物の削減

一般廃棄物のうち、溶解処分書類は前期末処分書類をまとめて廃棄した事や集計方法見直しの影響で、前期比 **114.9%**と大幅に増加した。特に可燃ごみについては年々増加している為、39期では削減できるよう積極的に呼びかけていく。

5. 化学物質の適正管理

効率化により使用量削減に取り組めた。

6. 教育

課内勉強会の定期的な開催、社内・外部研修等、各課で積極的に取り組めた。

7. 法令順守

事故や問題発生時には課内講習会を実施し対策を共有できた。

8. 地域との共生

各課での定期的な清掃活動、配送グループによる花壇作りを実施できた。

9. 見える化・平易化

LINE WORKS を利用した情報共有、エコメングループの定期作業マニュアル随時見直し等を実施できた。



3. 教育・訓練実績

- ◆ 漏油訓練 …………… 3月、6月、10月
- ◆ 防災BCP訓練 …………… 12月、4月、8月
- ◆ 交通安全KYT訓練 …………… 4月、7月、10月
- ◆ 法改正講習 …………… 7月
- ◆ 避難訓練 …………… 毎月
- ◆ 緊急連絡訓練 …………… 12月、4月、7月
- ◆ 年間活動総括(全体会議) …… 11月
- ◆ ハラスメント研修 …………… 6月
- ◆ 社内研修 …………… 9月・10月
- ◆ 外部研修参加 …………… 33件参加

各委員会活動、社内・外部研修共に、感染対策を踏まえた教育・訓練を実施できた。



4. 規定の改善

法規制・検査年間チェック表の改訂実施。



5. その他

- ◆ 安全衛生委員会による掲示・啓発活動
- ◆ ハラスメント相談窓口開設
- ◆ [森とアースへのECO-プロジェクト賛同](#)
- ◆ [ふじのくに森の町内会賛同](#)
- ◆ [静岡県海洋プラスチックごみ防止6R県民運動賛同](#)
- ◆ 天星Magazineリニューアル
- ◆ 浜北西高校での職業講和
- ◆ [はまはっぴー](#)様への備蓄食料等寄贈及び活動協力
- ◆ 浜松レスリングクラブSSFC様の活動支援



7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規の遵守状況

名称	内容	評価
廃棄物処理法	産業廃棄物の適正保管、委託処理	○
	運搬又は処分を委託する場合の処理基準の遵守(契約書締結)	○
	マニフェストの交付、保管、返却及び交付状況の報告	○
	産業廃棄物収集運搬業又は処分業の許可、変更	○
	産業廃棄物処理基準の順守	○
	特別管理産業廃棄物の収集運搬業又は処分業の許可、変更	○
	産業廃棄物処理施設設置の許可	○
	不法投棄の禁止	○
浜松市産業廃棄物の適正処理に関する条例	事業者、産業廃棄物処理業者の責務	○
	県外産業廃棄物処分協議の状況の確認	○
	産業廃棄物処理状況の報告等	○
大気汚染防止法	施設設置の届出、ばい煙の排出の制限、記録義務	○
水質汚濁防止法	施設設置の届出、排出水の排出の制限、測定・記録及び保存	○
騒音規制法	規制基準値の遵守、施設設置の届出	○
静岡県生活環境保全等に関する条例	騒音基準の遵守義務、特定施設設置の届出	○
消防法	貯蔵・取扱い及び運搬に関する基準・事故の措置等、設置許可	○
浄化槽法	保守点検・清掃、水質検査	○
P R T R 法	化学物質の排出量、移動量の届出	○
労働安全衛生法	一定の建築物・機械等の計画に関する届出	○
環境保全協定	住民との協定内容を測定、報告	○
フロン排出抑制法	簡易点検の実施	○
	第1種フロン類充てん回収業者への委託	○
	第1種特定製品廃棄等実施者の引渡義務	○
	フロン類の放出の禁止	○
資源有効利用促進法	パソコン等のリサイクル	○
自動車リサイクル法	使用済自動車の引渡義務、引き取り業者への引き渡し	○

※評価→○：遵守、△：検討中、×：不遵守

2. 違反、訴訟等の有無

関係機関からの指摘及び利害関係者からの訴訟は、過去3年間無し。



3. その他

◆ 立入件数

全3回（浜松市産業廃棄物対策課）

◆ 環境コミュニケーション

下善自治会との企業連絡会及び近隣向けの環境アンケートの結果、環境保全協定上の問題及び苦情等は無かった。

8. 次年度の取組内容

1. 取組内容

- ◆ 二酸化炭素排出量削減 ……前期比**99%**
- ◆ 一般廃棄物削減 ……………前期比**99%**

上記2項目の削減、特に一般廃棄物削減を目指して改善活動に取り組む。



2. 推進計画

- ◆ 中間報告・環境目標見直し・職場会議：年4回(11月、2月、5月、8月)
- ◆ 教育・訓練：年間スケジュールに従う(漏油訓練、防災訓練、KYT訓練、外部研修 他)
 - ◆ 環境測定：毎月(排水)、12月・6月(地下水、大気)、10月(騒音・悪臭・振動)
 - ◆ 年間活動総括(全体会議)：11月
 - ◆ 産業廃棄物許可更新：3月、6月、8月(5自治体)
 - ◆ 環境コミュニケーション：2月(企業連絡会)、10月(近隣向け環境アンケート)
 - ◆ PRTR報告：4月
 - ◆ 産廃実績報告：6月
 - ◆ タンクローリー定期検査：6月
 - ◆ 関連文書改訂(環境マニュアル等)：随時
 - ◆ SDGs推進：随時
 - ◆ 地域貢献活動：随時

森とアースへのECO-プロジェクト、ふじのくに森の町内会等の以前から継続している活動に加え、使用済紙容器・使用済ハブラシ回収、静岡県海洋プラスチックごみ防止6R県民運動への賛同等、浜松市や静岡県の環境関連事業には今後積極的に取り組んでいく。

また、地域貢献活動として継続中の地域清掃や花壇作りと併せて、はまはっぴー様への寄付・活動協力、浜松レスリングクラブSSFCの活動支援といった活動も継続していきたい。



浜松レスリングクラブ SSFC



9. 代表者による全体評価と見直し

- 第38期の取り組みについて確認を行い、第39期の環境経営目標を策定した。
- 新しい目標と主な活動計画は「8. 次年度の取組内容」参照。
- 本活動と連携してSDGsも展開していく。

今期は2月にロシアによるウクライナ進行が始まり、ただでさえコロナ禍で経済が混乱しているところへ輪をかけてインフレ、エネルギーの供給の混乱が起きた。

欧州先進国では、化石エネルギーや原発への回帰が見られるなど、地球規模の環境対策に逆行するかのような動きも見られたが、地球規模の気候変動対策が待たなしであることには変わらない。

弊社の経営環境については、石油の高騰と、その対策として石油元売りへの補助金交付による価格抑制が大きなトピックスである。コロナ禍も7月～8月にかけての第7波の際に自宅待機者が多数発生するなどしたが、大変な努力の結果、無事に38期を終えることができた。感謝しかない。

システムについてはおおむね順調であるが、ベテラン・中堅社員は、形骸化しないように、いろいろと工夫をして成果を上げてほしい。入社3年未満の人は、中身の勉強を逐次行うことが重要である。活動のためには記録、伝達の技術向上も必要であり、文書作成、DXの活用も含めて今後鋭意取り組まねばならない。

以上

2022年10月31日

天星製油株式会社

代表取締役 鈴木宏政



天 天星製油株式会社
TENBOSHI SEIYU CORPORATION